



クビナガリュウ
「ホッピー」

ホッピーだより

No. 331

2012年6月1日発行

むかわ町立 穂別博物館

〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6

Tel/Fax 0145-45-3141

ホームページ <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>

2012年の化石体験コーナーのお知らせ

時間：10：00～16：00（最終受付15：30）

①化石レプリカづくり（無料・有料）

7/14(土) 7/15(日) 7/21(土) 7/22(日)

7/28(土) 7/29(日) 8/4(土) 8/5(日)

無料のアンモナイト（左写真） シリコン型に石こうを流し込み、レプリカを作ります。完成まで約30分。ラベルが付きます。

立体図鑑づくり（下写真 有料1個100円）：常設展に展示している標本のレプリカ（全31種類；クビナガリュウの歯・ヒレ・胃石；モササウルス類の歯5種類・ヒレ；ウミガメのヒレ；プテロダクトサウルス類サメ歯；デスモスチルス歯2種類；イノセラムス科二枚貝2種類；アンモナイト15種類；鞘形類）が作れます。解説シート付き。



ひとつのみ無料

有料（立体図鑑）

クビナガリュウ 	モササウルス 	アンモナイト 	鞘形類
モササウルス 	ウミガメ 	プテロダクトサウルス 	デスモスチルス
イノセラムス 	オビジナル解説シート 		



②レプリカアクセサリーづくり（無料 2個目以降有料）

8/11(土) 8/12(日) 8/18(土) 8/19(日)

アンモナイトのプラスチック模型でストラップまたはサンダルアクセサリーを作ります。完成まで約10分。一人一つ（どちらか片方）は無料。2個目以降は1個100円。



③化石クリーニング体験（無料）

11/3(土・祝) 11/10(土) 11/17(土) 11/24(土)

ハンマーとタガネで化石を岩石から取り出します。子ども用にプラスチックレプリカ入りの擬似ノジュールもあります。一人15分。

アノマロケリス

ツノのある奇妙なカメ

むかわ町穂別では、世界的にも珍しい「ツノのあるカメ」の化石が見つかっています。穂別地域から発見される白亜紀の化石は海の生物が中心ですが、その中で数少ない陸の生物の化石を紹介します。

発見の経緯

1977年10月、阿部利春氏（穂別在住）によって一つのノジュール（岩塊）に包まれた状態で発見され、1991年に寄贈された。

基本情報

分類：脊椎動物門 カメ目 スッポン上科

ナンシュンケリス科

アノマロケリス・アングラータ

Anomalochelys angulata Hirayama et al., 2001

（意味：「ツノのある奇妙なカメ」）

登録番号：HMG-1056

年代：中生代白亜紀後期

産出部位：背甲の大部分と腹甲の一部

発見者：阿部利春

研究者：平山廉（現・早稲田大学教授）

研究

2001年に平山ほかによって、新属新種として公表された。

背甲の前端部（頭を収める部分）が丸くくぼみ、その両側が前方へのびて「ツノ」となっているのが最大の特徴。

背甲表面には、その上に重なる鱗板の境界線である深い溝（鱗板溝）が直線状に見られ、絶滅したナンシュンケリス科の特徴を示している。ナンシュンケリス科には他にも背甲の前端部がくぼんでいる種類はあるが、その両側がツノのようにのびているものはこの種類のみである。

ナンシュンケリス科は、白亜紀前期の終わり頃から白亜紀末期にかけて、アジアや北アメリカに生息していた。指の骨や頭骨の特徴が現生のゾウガメに似ていることから、陸上を歩いて植物を食べていたものと考えられている。



背面（外側）から見たところ



腹面（内側）から見たところ

アノマロケリス完模式標本（HMG-1056）
背甲の前端部がのびて「ツノ」となる（▼）。↑は鱗板溝。◆は腹甲の一部。

【アクセス】



【利用案内】

開館時間 9:30~17:00（最終入館 16:30）

入館料 個人 / 小～高校生 100円

大人 300円

団体 / 小～高校生 50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

【休館日】

2012年6月

4(月) 11(月) 18(月)
25(月)

7月・8月

無休です